

講習No.
S26
選択

【選択】宇治の文化と文学

講習の開催地

宇治キャンパス

講習の期間 **平成28年12月3日(土)**

受講料 **6,000円**

対象職種 **教諭**

定員	時間数	試験方法	担当講師	千古 利恵子(京都文教短期大学幼児教育学科教授)
50人	6時間	筆記試験		

主な受講対象者 幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭

講習の概要

我が国の伝統や文化を尊重する心を育成するためには、教員自身が日本の伝統や文化について関心を深めることが重要である。本講習では、宇治の風景・人々の暮らしを伝える資料や文学作品などを鑑賞しながら、宇治の昔と今を検証し、「次世代に伝えるべき文化」について考える。なお、伝統文化継承の今日的課題を明らかにするために、宇治の伝統文化の一つ「鵜飼」を取り上げる。課題提示にあたり、ゲストスピーカーに鵜匠を迎え、その日常を知る時間を設ける。

1限 9:00～10:30(90分)	2限 10:40～12:10(90分)	3限 13:10～14:40(90分)	4限 14:50～16:20(90分)
宇治の景色の昔と今 —文学に描かれた宇治— 古典文学には、宇治を舞台にした出来事や風景が描かれている。その中から代表的な作品を選び鑑賞することを通して、宇治の地の昔と今を比べる。	宇治の伝統文化と人々の暮らし 時代を問わず、人々の暮らしは生活する土地の文化と深くかわり、影響を受けるのだろう。宇治は、世界遺産の保存という社会的使命を担うことが、人々の暮らしにどのような影響をあたえるのか、考えてみる。	宇治川の鵜飼と伝統の継承 —鵜匠を招いて— 伝統文化の継承は、学校教育においても重んじられている。そこで今回は、宇治の文化継承者の話をふまえ、「伝えるべき文化とは何か」「継承にはどのような課題が有るのか」を検証する。	まとめと修了認定試験